

# 犬の能力について

59期生

## I テーマ設定の理由

私の家では犬を飼っています。その犬は5, 6語くらいの言葉なら理解できるので、犬はどれくらいの能力を持っているのか、疑問に思ったからです。

また、盲導犬や災害救助犬が活躍しているのをTVで見て、犬が街中でどれくらい活躍しているのだろうと思い、調べてみました。

## II 研究方法

- ・犬に関する本やホームページで調べる。
- ・盲導犬の訓練所へ行き、訓練士の方のお話を聞く。

## III 研究内容

### 1. イヌとは

#### (1) イヌの歴史

- ①イヌの祖先はオオカミ。中でも、体の小さなアラビアオオカミである説が最も有力になっている。
- ②イヌが人と暮らし始めたのは、人の近くで暮らすイヌの、狩りをする能力や警戒心の強さ、集団で行動することなどに注目して、イヌを飼い始めたのではないかと、考えられる。

#### (2) イヌの体の能力

- ①眼(視力)……イヌの眼は人間でいえば少し近眼気味で、あまり遠くは見えない。色もよく分からないが、その代わり暗いところは人間よりもずっとよく見える。動くものには敏感なのが特徴。
- ②鼻……イヌの嗅覚は特に優れていて犬種によっては人間の100万倍以上の能力があるといわれている。
- ③耳(聴覚)……イヌは聴覚も優れている。人間の4倍も遠い音を聞けるだけでなく、人間には聞こえない高い音を聞くことができるが、低い音は人間に比べて聞く力が弱い。
- ④舌(味覚)……味覚は舌で感じるが、イヌの味覚はにぶく、あまり味を感じない。熱いものは苦手、イヌなのにネコ舌。舌を出してハアハアするのは、汗をかかないイヌが体温を下げるためにする。
- ⑤毛……イヌの毛は体温を守るやわらかい毛とその毛を守るかたい毛の二重になっている。
- ⑥足……イヌの足で地面についているのは、実は指先。つめは地面をけるスパイクでひっこめられない。足の裏には肉球があり、運動靴の靴底のように、走るとき

のショックをやわらげる。

⑦泳ぐ力……泳ぐ能力は犬種によってちがうが、鳥猟犬のレトリバーの仲間や使役犬のニューファンドランドは泳ぐのが得意。中には数km泳ぐことができる犬種もいる。

⑧走る力……イヌは人間よりも速く走ることができる。大昔、野山を駆け回っていた先祖から受け継いだ能力。足の速い犬では、時速80kmで走れる。

## 2. 働く犬 ～現代の社会で働く犬～

(1) 警察犬……事件現場に残された物や足跡のにおいから、犯人や犯人がにげた道筋を探したり、犯人を監視したり足止めしたりする。また、写真のように犯人が暴れたり、襲ってきたとき、犯人の腕に噛み付いて動きを止め、警察官を守る。



(2) 爆薬探知犬・麻薬犬……警察犬の仲間には、空港や港などで働く犬もいる。火薬類に敏感に反応し爆発物を発見する爆薬探知犬や、バッグなどに隠された麻薬が国内に持ち込まれるのを防ぐ麻薬犬がいる。

(3) 介助犬……車椅子を利用している人など、体の不自由な人を手助けするのが介助犬。生活をしていくのに必要な様々な作業を手伝い、車椅子の乗り降りだけでなく、ドアの開け閉めやスイッチを押すことまで行う。

(4) 聴導犬……耳の不自由な人の手助けをする。玄関のチャイムや電話がなると主人に知らせたり、目覚まし時計がなると主人を起こすよう訓練されている。

(5) 水難救助犬……水辺でおぼれた人を救助する。事故現場にすばやく到着することが大切なので、イタリアにはヘリコプターで出動する救助犬もいる。

(6) 山岳救助犬……山で遭難した登山者を探すのに活躍する。高い山や雪山での遭難は、発見が早いほど命が助かる確立が高い。ここで犬の優れた嗅覚が役に立つ。



(7) 災害救助犬……地震や土砂崩れで倒れた建物から生存者を見つけ出す。地震の救助犬はがれきの下8mにいる人のうめき声やにおいを探知できるという。

## 3. 盲導犬について

今回は、イヌの持っている能力を使っている働くイヌの中でも盲導犬について詳しく調べました。

(1) 盲導犬とは？……盲導犬とは目が不自由な人を安全に快適に誘導する犬のことです。

(2) 盲導犬の歴史……人間と犬の長い共存の歴史において、かなり古くから犬が目の不自由な人を誘導し歩行の援助をしていたことが知られています。太古の火山噴火

で有名なポンペイの壁画には、目が不自由だと思われる男の人が、犬に導かれて市場を歩く姿が、描かれており、6世紀には目の不自由な宣教師が白い小型犬に導かれ、フランス北部を宣教して歩いたとされています。現在のように、盲導犬が合理的な体系のもとでなされたのは、第一次世界大戦後のドイツでのことです。その主な目的は、大戦で目が不自由となった軍人の救済でした。その後、盲導犬育成事業はスイス、アメリカ、イギリスなどに相次いで広がりました。

日本に紹介されたのは1938年に盲導犬を連れて旅行中の青年が立ち寄ったのが最初です。その後、1957年には国産第一号の盲導犬も誕生し、1967年に日本盲導犬協会が設立されました。

## (3) 盲導犬の仕事

盲導犬以外にも目の不自由な人を助けるもの（人）があります。しかし、どれをとってもデメリットが出てきます。

### ○目の不自由な人の手助けとなるもの

- ・盲導犬
- ・白杖
- ・目の見える人

### ○盲導犬のデメリット

- ・犬の世話が必要
- ・犬の毛がおちること
- ・犬との別れ
- ・店などで断られることがある

### ○白杖のデメリット

- ・まっすぐ歩けない
- ・上にある看板などの障害物はよけることができない。

### ○目の見える人のデメリット

- ・無駄なおしゃべりをしてしまう
- ・旅行などにはついてくるのが難しい  
＝自由にどこにでも行けない（相手のスケジュールの都合）

### ○盲導犬は何をしてくれるのだろうか？

- ・障害物をよけて歩いてくれる
- ・段差や階段などの前で止まってくれる
- ・目標物に誘導してくれる
- ・危険な場所には誘導しない

### ○盲導犬の仕事に私たちがやってはいけないこと

- ・ハーネスはユーザーと盲導犬との間で言葉や気持ちを交わすための大切なものです。絶対に触れないこと。
- ・ハーネスを着けているときは仕事中です。呼んだり、口笛を吹いたり、なでたりしないこと。



- ・盲導犬には、お菓子など食べ物を与えないこと。
- ・人に対して友好的な性格の犬を選んで訓練しているので、盲導犬は、吠えたり、噛んだりすることはありません。犬が苦手な人でも、怖がらず、そっと見守ってあげること。

#### (4) 盲導犬を育てるボランティア活動

- ①繁殖犬飼育ボランティア……盲導犬としての素質を持った繁殖犬を、一般の家庭で預かってもらう。普段の生活は一般のペットとほとんど変わりありません。時々、盲導犬候補となる子犬の出産・育児を手伝うこともある。
- ②パピーウォーカー……将来盲導犬になるために生まれてきた子犬（パピー）を約10ヶ月間育てるボランティア。
- ③キャリアチェンジ犬飼育ボランティア……キャリアチェンジ犬とは、盲導犬になる厳しい条件を満たさず、盲導犬には合わないと判断された犬のことです。盲導犬にはたまたま合わなかっただけで、ダメな犬ではありません。この、キャリアチェンジ犬を家庭犬として、飼ってもらうボランティアです。  
キャリアチェンジ犬は、家庭に迎えられるだけでなく、盲導犬のデモンストレーションの時に活躍するPR犬になる場合もあります。また、介助犬やセラピードッグとして活躍するなどの道を歩む犬たちもいます。
- ④リタイア犬飼育ボランティア……盲導犬を引退後、一般のペットとして余生を送ります。リタイアウォーカーのおかげでユーザーの方は新しい盲導犬を安心して、手にすることができます。

#### 4. 現在の盲導犬事情

日本ではまだまだ足りないのが現状です。

日本……1年間に育成されているのは、約120頭です。そのうち10～15頭が関西盲導犬協会が育成されています。

しかし、1年間に育てられた盲導犬の約半数は代替えといって、すでに盲導犬ユーザーだった人で、その盲導犬が引退したり亡くなったりした人の盲導犬となります。ですから、新しく盲導犬ユーザーとなる人は、毎年40人～60人ぐらいです。

また、盲導犬ユーザーの中には、「盲導犬との別れがつかったから」といった理由から代替えを希望しない人もいます。なので、前の年に比べると、増えている盲導犬の数はだいたい20頭ぐらいです。

平成17年3月31日で957頭

↓ それに対して

盲導犬を希望する人は

全国で約7,800人います。

一頭の盲導犬を育てるのに約200万円かかります。しかし公的助成が少なく、毎年の収入の約95%が、募金などのため、盲導犬を必要としている目の不自由な人の希望に応えるのは難しいです。

#### 外国

アメリカ	5,856頭	イギリス	4,103頭
フランス	780頭	オーストラリア	365頭
オランダ	303頭	イタリア	289頭
南アフリカ	256頭	ニュージーランド	176頭
カナダ	171頭	アイルランド	113頭

イギリス……盲導犬先進国で、毎年600頭余の新しい盲導犬が育成されています。盲導犬に対する社会の理解も深く、比較的トラブルも少ないと言われています。

アメリカ……アメリカでは全ての州で法律によって視覚障害者が盲導犬を伴ってレストランやホテルを利用し、また公共の施設や交通機関を利用する権利があることを認めています。さらに個人及び法人がこの権利を侵害した場合の罰則も設けています。

1990年には10ヶ国30数施設が参加して国際盲導犬学校連盟（本部：イギリス）が発足し、積極的に情報交換や施設・訓練内容などの統一化を進めています。

#### 5. 盲導犬の未来

盲導犬を希望している人に対して、盲導犬の育成頭数はまだまだ不足しています。

1人でも多くの目の不自由な人に、盲導犬という希望の光を届けるために、日本盲導犬協会が盲導犬育成体制を改革します。

盲導犬の繁殖～出産～訓練～引退までを総合的にケアする施設「全国盲導犬総合育成訓練センター（仮称）」（愛称・盲導犬富士の里）が静岡県富士宮市に建設されます。この施設で年間150頭～180頭を育成する予定です。

#### IV まとめ

犬の体の能力は、人間以上に優れていて、人間もその能力の世話になっていることが分かりました。私の知らないところでも、イヌが活躍していることを知りました。また、日本では盲導犬が不足していることや、一匹の盲導犬を育てるのに、たくさんのお金とボランティアが必要だということも分かりました。新しく静岡県に「全国盲導犬総合育成訓練センター（仮称）」ができ、盲導犬がこれから益々活躍できるようになることを嬉しく思いました。

## V 感想

大昔から続いてきた、人とイヌの関係がいつまでも続いてほしいと思いました。また、いつどこで、イヌに助けられるか、分からない時代になってきているので、少しでもたくさん働くイヌを育てられる環境が増えればいいなと思いました。また、私たちにも募金など、やれることがあるので、協力したいと思いました。今後、災害が起きたとき、山で遭難したとき、海で溺れたとき、目や耳が不自由になったときに、私たちを助けてくれるのは、人では無くイヌになるでしょう。

## VI 参考文献

- ・学研の図鑑 イヌとネコ 今泉忠明 学研
- ・フォーグル博士のDOGS ブルース・フォーグル  
NEKO PUBLISHING CO., LTD.

〈ホームページ〉

- ・JOLLY'S MAGAZINE  
<http://www.ocn.ne.jp/jolly/charity/index.html>
- ・えりす♪  
<http://www.gendainet.com/ellis.html>
- ・めざせ盲導犬！  
<http://orangetea.no-ip.org/index.html>
- ・日本盲導犬協会  
<http://www.moudouken.net/>
- ・犬の事務所  
<http://www.sekitan.net/moudouken/zimusyo.htm>
- ・関西盲導犬協会  
<http://web.kyoto-inet.or.jp/org/kgdba/>